

支えられて見つけた自分の道

私は、「この高校に入学したとき、校舎の構造が中学校とは全く違って、自由な校風の意味を履き違えている人がいることなど、大きなことから小さなことまで驚きの連続でした。

こんな環境で三年間過ごしていけるのだろうか—そんな不安を抱えていたあの頃、私を支えてくれたのは野球部の仲間と先生方でした。時に厳しく、時に優しく、互いの気持ちを分かち合うことができたあの時間は、この学校で過ごす上でかけがえのないものでした。

特に、野球部の部長の存在は私にとって大きなものでした。大学進学という目標を持つきっかけをくれたのも部長でした。

部長は最後まで私を信じてくれ、夜遅くまで寮で勉強を教えてくれることもありました。苦しい時期もありましたが、その支えがあったからこそ最後まで頑張ることができたのだと思います。

卒業の際に「いつでも帰っておいで」と声をかけてもらったとき、この学校は自分にとっての帰る場所なのだとは心から感じました。

不安に思っていた三年間でしたが、終わってみればあっという間でした。人の一生から見れば、この三年間はとても短い時間かもしれません。

しかし、思い出や努力、苦労、そして喜びを、これほど多く経験する時間はなかなかないのではないかと思います。時に苦しいこともあります。それもまた青春です。

在校生の皆さん、そしてこれから入学される皆さん、ぜひこの高校生活を大切にしてください。そして、友達や先生、地域の方々など、周りにいる「人」を大切にしてください。

私はこの春から大学に進学します。合格までの道のりはとても苦しいものでしたが、同時にとても面白い時間でもありました。普段の授業では学ばないような難しい内容を勉強するのは大変でしたが、自分の知識が増えていく感覚には、言葉にできないほどの楽しさがありました。

また、「合格のために努力する」という経験ができたことも、大きな財産になったと感じています。